



碧南ロータリークラブ週報

第2445回例会 平成21年2月18日(水)

- 会長 平岩統一郎 ● 幹事 長田 豊治 ● 会場監督 (SAA) 木村 徳雄 2008-2009年度 国際ロータリーのテーマ
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
ホームページ: [http:// www.hekinan-rc.jp/](http://www.hekinan-rc.jp/)
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 長田和徳・岡本明弘・角谷 修・黒田泰弘



**Make
Dreams
Real**

● 齊 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

● ビジター紹介

半田RC 神戸信寅君

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館



平岩統一郎会長

会 長 挨拶

過日、長田幹事と一緒に会員の杉浦昇一さんのお見舞いに行って参りました。杉浦さんは現在安城厚生病院に入院されており、お見舞いに行ったときは元気で見えましたが、病名が特発性肺線維症という難病指定だそうです。本人は非常に元気で顔色もよかったです。皆さんによろしくとっておられました。会員の小笠原良治さんも約2ヶ月入院されておられます。お見舞いに行って参りましたが、非常にお元気でみえました。

先週土曜日に高浜ロータリークラブの40周年に幹事と2人で出席しました。式典は記念例会方式でそのあと懇親会で主賓は分区代理ガバナー補佐でありました。記念事業はマングローブの木をフィリピンのネグロス島の海岸に2000本植樹し、フィリピンの小学校に井戸を掘ったそうです。また高浜市内の小中学校にAEDを寄贈したそうです。クラブの特徴としては、青少年留学生交換プログラムを当初より継続事業として活発に活動してみえます。交換学生も出席してみえました。なお引き出物は生卵30個でございました。

国際ロータリーの李東建会長から碧南ロータリー会員に対してメッセージが以下のように届いております。

碧南ロータリー・クラブ 会員の皆様へ
拝啓

この度、貴クラブが50周年を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。今から50年前、地域社会へ奉仕するというロータリーの理想を尊び、これに賛同した貴クラブの創立会員が、碧南市にロータリー・クラブの基礎を築かれました。時を経て今日、貴クラブは地域社会のボランティア、そして事業・専門職に携わる人々からなる巨大な国際的ネットワークの一員となりました。今年度、皆様の多くは世界中で子供の死亡率を減らすためのプロジェクトを実施することに焦点を当てられていることと思います。私たちが一体となると、成し得ないことなど何もないということ、どうか忘れないでください。

私たちは、地元社会、ひいては遠く離れた海外の地域社会において、すべての子供に将来の希

望とチャンスを与えなければなりません。ロータリーがなければ、子供たちの日々のニーズが満たされることはないのです。だからこそ、世界中の子供たちの生活をできる限り改善すべく、水、保健と飢餓、識字率向上といった分野における近年の取り組みで私たちが培ってきた知識を生かし、また、ほかのロータリアンにも同じく行動を起こすよう激励していただきますよう、皆さまにお願い申し上げる次第です。

貴クラブの歴史における重要な節目を祝うと同時に、子供たちにきれいな水、健康な生活、教育の機会を与えられるようなプロジェクトを計画し続けていただきますようお願いいたします。クラブ同士が協力し合い、必要とされていることを実行に移さなければなりません。子供たちが安全でのびのびと育ち、健康で長生きできるよう、今年度、私とともに、どうか「夢をかたちに」のテーマを実践していただきますようお願い申し上げます。

敬具

李東建

2008-09年度RI会長

会員増強バッチ進呈

木村徳雄君



幹事報告

・他クラブの例会変更等は別紙幹事報告の通りです。

副幹事報告

- ・次年度の役員編成表を入れておきましたので一読をお願いします。
- ・次年度の地区協議会が開催されますので該当の方はよろしくをお願いします。



長田豊治幹事



棚田副幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数80名(内出席免除者15名の内出席者10名)出席者60名

出席対象者 60/80名 出席率 75.95%

欠席者20名(病欠者1名) 前々回修正出席率 95.89%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

木村 徳雄君 会員増強推薦者バッチを頂きました。

卓話

「碧南の教育について」 碧南市教育長 小笠原幸男氏

ロータリーの皆さんこんにちは、今日は卓話にお招きくださりありがとうございます。また、美術館では神戸先生作の立派な像を寄付していただき非常にお世話になっております。つい最近ではコレクションの作品を商工会議所を通して寄付していただき非常に感謝しております。



私の教育長の任期が7年を経過したのも皆様のご協力のおかげであると思います。特に私は教師時代3年間小原村にいたときに藤井達吉さんに出会い勉強することができました。今回の美術館を開館するにあたりこれを検証することが私の教育長になったことであると思っております。議会の議長の判断で美術館を造ることになったわけではありますが、初代の館長さんは木本文平さ

ん以外には考えられないと当時の永島市長にお話しお願いした訳ではありますが、議会ではなかなか認めてもらえず大変でありました。木本さんは藤井達吉研究の第一人者で市制50周年の記念展示会を始め美術品の購入審議会のメンバーでもあり、この方をおいて碧南美術館の館長はあり得ないと思っておりましたので、木本氏に館長を務めていただけたことは本当に良いことでありました。ただ年間の美術館の費用が議会で1億円に減額され厳しい財政の中で運営することになっております。

いろいろ難しい中での運営で思いは色々ありますが、この7年間に教育長のホームページにいろいろと書いておりますのでご興味がございましたら一読をお願いしたいと思います。その中で一部紹介させていただきたいと思えます。

平成18年3月15日 『話してもわかろうとしない人』は・・・

世の中には、『話せばわかる人』『話してもわからない人』『話さなくてもわかる人』がいるという話を耳にしました。これは人となりの問題であります。いつも相手が何を考えているか、また、何を望んでいるかということに気配りをする人は、大方は『話せばわかる人』『話さなくてもわかる人』であります。職場がそんな人たちの集まりであれば、何をやるにしても目的に向かってまっしぐらに進む活気があると思えます。家族も、そんな人たちが成員になっていると実に楽しく、明るい家庭ができると思えます。

しかし、どんな集団にも必ずいるというのが『話してもわからない人』であります。能力的に明らかに問題がある場合と、価値観の相違がはっきりしている場合があります。ときには、わからせようとする側の要求に無理があることもあります・・・

一番困るのが、『話してもわかろうとしない人』であります。相手の立場や気持ちは十分わかっている、それを故意に受け入れようとする人です。・・・略

3月18日 ウイルあいちで行われた「命の教育フォーラム」に参加しました。相田みつを美術館長の相田一人先生からお父さんの相田みつをの生き様（詩の世界）を紹介していただき、わたし自身いくつかのことで認識を新たにしました。また、教育長という立場で本当に黙っていて職務の遂行ができるのかという疑問にぶつかってしまいました。

『道』

長い人生にはなあ／どんなに避けようとしても／どうしても通らなければならぬ／道というものがあんだ／そんなときはその道を／黙って歩くことだ／愚痴や弱音を吐かないでな／黙って歩くんだよ／ただ黙って／涙なんか見せちゃダメだぜ／そしてなあ／そのときなんだよ／人間としてのいのちの根が／ふかくなるのは　みつを

わたしは、「教育施設として美術館をつくってほしい」と、これまで度々、市当局や市議会関係者に要望してまいりましたが、まさか、この美術館建設がこれほど政争の具になるなんて予想もしなかったことでもあります。

そこで、『道』という詩に戻ります。美術館建設に理解を求めて、言いたいことはたくさんあります。しかし、建設に反対の立場の人にくら誠意をもって説明しても、なかなか納得してもらえない歯がゆさ、もどかしさは、つい愚痴になって別の場で話題にしています。でも、相田みつをの詩『道』は「そんなときこそ、人間としてのいのちの根が深くなるときだから愚痴を言わず、涙を見せずに我慢せよ」と言っていると解します。行政の一翼を担って目的遂行に努める立場の者が、自分に言い聞かせるだけでよいのでしょうか。黙っていてよいのでしょうか。というジレンマに陥り、まだまだ人間としての未熟さを露呈して、やりきれない思いをしているこの頃であります

美術館ができあがって、歩いてくらせるまちづくりの拠点として、大浜小学校の子供たちは敏感に感じているようで、いろんな俳句を読んでいると想いが伝わってきます。こういった美術館

といったものに関する芸術について次世代の子供たちに託して行かなければならないと思います。芸術文化振興会で以前「藤井達吉翁の世界」を配布したことがあります。覚えておいでですか。これは、沼津に行かれる前に、藤井先生が語られたことを記録したものであります。その中で碧南市で美術館という無形なものに対する投資をもっとすべきであると痛烈に当時の市制を批判してみえます。

以上で私の美術館に対する思いについてお話を終えさせていただきます。

次回例会案内 平成21年3月4日(水)
クラブフォーラム「四コマまんがと碧南一家」
カトーデザイン 代表 加藤正巳氏